



こども・若者が活躍するまち

～こども・若者の声を形に～

市では、こども・若者の意見を直接聴くことができる機会を設け、そのアイデアを形にする「こども・若者の声を形に」プロジェクトに取り組んでいます。

問 こども若者政策課(さわやか保健センター 2階)
☎562-7882、FAX561-6780

昨年度の取り組み

3件の対話事業と2件の協働事業を実施しました。今回は、協働事業でアイデアを形にするために活躍した“声”を届けます。



1 謎を解いて、まちのヒミツをさがせ! 「くさつハッケンジャー!」

対話事業「まちのジブンゴトfeel→do!」で提案のあった、大学生14人の「こどもたちが謎解きや探検を通じて、遊び感覚でまちの魅力を発見するプログラムを実施したい」という声が形になりました。参加したこどもたちが、草津のことを楽しく学べる機会となりました。



活躍した大学生の声

- まちを探検して「知らなかった。こんなこと初めて聞いた。」など新しい発見がたくさんあった。
- こどもたちの発想には、私たちも驚かされてばかりでした。
- 若者の挑戦を応援していただいた多くの方のおかげで、自分たちの「やってみたい!」を「やってみた!」にできた。次は自分たちが、こどもの「やってみたい!」を応援したい!

2 みんなで教え合う自習室「Let'sまなびバ!」

対話事業の「中学生と市長との対話」で、中学生から「こんな自習室なら行きたい」「いろんな人と交流したい」という声があり、市内中学校4校から集まった中学生7人を中心に、立命館大学の学生20人がサポートして形になりました。中学生のアイデアを盛り込んだ自習室は、大学生に勉強を教えてもらえたり、交流できる時間があつたりと、にぎやかな自習室となりました。



活躍した中学生の声

- 思い描いていたことが形になって良かった。
- 一から考えて一生懸命がんばったことが実行できて、楽しいと思える場所にできて良かった。
- (7人全員) また何か企画したい!

サポートした大学生の声

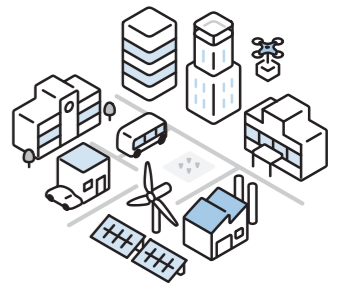
- あまり関わらない中学・高校生と一緒に遊び、勉強を教えるといった経験ができて楽しかった。
- 中学生が「インフルエンザで休んでいる間に授業が進んでしまった。」と言っているところを教えることができ、この企画があつて良かったと思った。
- 同世代の人が経験できないことができ、有意義で貴重な経験となった。



みんなで備える風水害対策

問 河川課(5階) ☎561-2397、FAX561-2487

強い雨が短時間に降ると、道路が冠水したり、川の水が溢れたりする恐れがあります。こうした風水害から命を守るためには、日ごろの備えが大切です。まずはハザードマップを確認し、避難場所や避難する道、家族との連絡方法をあらかじめ話し合っておくと安心です。早めの行動につなげましょう。



日ごろから準備をしましょう

緊急時に身を寄せる避難先は、市が指定する避難所だけではありません。身を寄せられる親戚や知人がいる場合は、日ごろから相談し、そこへ避難することも考えておきましょう。



- ☑ 洪水・内水ハザードマップを活用して、自宅や職場周辺の危険箇所を知っておきましょう。
- ☑ 非常時の持出品を準備し、すぐに持ち出せる場所に置きましょう。
- ☑ 気象情報や避難情報をすぐに確認できるよう、防災アプリやメール配信サービスを活用しましょう。

草津市洪水・内水ハザードマップ

もしものときに備えて、ハザードマップを見たことはありますか。自分の住んでいる場所の危険や避難先を知ることが、安全への第一歩です。この機会にぜひ確認してみましょう。河川課(5階)や危機管理課(1階)、市民交流プラザ(野路一)、各地域まちづくりセンターにも設置しています。市ホームページからダウンロードもできますので、ぜひご活用ください。



アンダーパスとは交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周囲より低くなっている道路のことです

雨天時の道路アンダーパスの通行に注意してください

近年、全国各地で多発する集中豪雨など、想定を上回る大雨のときには、排水が追いつかず、アンダーパスが冠水し、車両が水没するなどの重大な事故が発生しています。

冠水の深さ	壁や路面の表示	車への影響(車の形状によって異なります)
30 cm	黄色	マフラーからエンジンに水が入ることで、エンジンが止まり、車が動かなくなる
50 cm	赤色	外側から車にかかる水圧で、ドアが開かなくなる
100 cm	オレンジ色	水の浮力で車が浮き、流れ出す

※水深の表示は、順次対応を進めています。水深の表示がなされていない場所もありますので、ご注意ください

- 豪雨に限らず雨天時に道路アンダーパスを通行する場合「冠水しているかもしれない」という意識を持ちましょう。冠水している場合には不用意に進まず、ハザードランプを点灯して後続車両に注意を促してください。事前に迂回するなど、危険回避を優先するようお願いします。
- 歩行するときも、冠水している場合は水の濁りで路面が確認しづらくなり、側溝のふたが開いていて転倒するなど、怪我をする恐れがありますので、十分注意してください。

